



令和2年9月14日

株式会社メディアシーク

代表取締役社長 西尾 直紀
 (コード番号:4824 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役業務管理部長
 根津 康洋
 (TEL 03-5423-6600)

各位

令和2年7月期通期業績予想との差異及び特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ

令和2年6月5日に公表いたしました令和2年7月期(令和元年8月1日～令和2年7月31日)の業績予想と実際の業績に差異が発生しましたのでお知らせいたします。また、令和2年7月期通期決算において、特別損失を計上する見込みとなりましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異について

令和2年7月期 通期連結業績予想との差異(令和元年8月1日～令和2年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益※
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,258	△29	45	2	0.25
今回実績(B)	2,305	39	113	35	3.60
増減額(B-A)	47	68	68	33	
増減率(%)	2.1	—	151.1	—	
(ご参考) 前期実績 (令和元年7月期)	1,856	△128	△84	△95	△9.79

※当社は、平成26年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。
 1株当たり当期純利益につきましては、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して計算しております。

2. 差異が生じた理由

令和2年6月5日に公表いたしました令和2年7月期の通期連結業績予想において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により当初予定の売上額が大幅に減少する見通しとなったことから、売上高については2,258百万円、営業利益については29百万円の営業損失、経常利益については45百万円、親会社株主に帰属する当期純利益については2百万円を想定しておりましたが、令和2年7月期第4四半期(令和2年5月1日～令和2年7月31日)における法人事業及びコンシューマー事業の事業活動において、上記6月5日時点の見通しよりも売上額の減少を抑制することができ、あわせて、同事業活動におけるコスト削減努力の結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益についても、上記6月5日時点の見通しよりも影響額を軽減することができました。その結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益について上記の差異が発生することとなりました。

3. 特別損失（固定資産の減損損失）の計上について

当社が保有する固定資産（工具器具備品等）について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき慎重に検討した結果、令和2年7月期通期決算において、2,961千円の減損損失を計上することといたしました。また、当社子会社であります株式会社デリバリーコンサルティングが保有する固定資産（建物付属設備等）についても、上記基準に基づき、令和2年7月期通期決算において、14,391千円の減損損失を計上することといたしました。その結果、あわせて、令和2年7月期通期決算において、17,353千円の減損損失を特別損失として計上することといたしました。

当社グループ全体として、今後、売上拡大とさらなるコスト改善に取り組むことにより収益の改善を図ってまいります。

(注) 本業績予想は、本資料発表時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づき作成しております。本業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えられるようお願いいたします。また実際の業績は、様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

以上